

気候情報

2006年5月の日本の天候

日照がかなり少ない（東・西日本）、
気温高い（全国）

5月の天気概況

日本付近で高気圧が強く寒気が入りにくかったことから、全国で気温が高かった。また、上旬後半から中旬にかけて、前線が平年に比べ北上し本州南岸に停滞することが多かったため、東日本と西日本では天気がぐずつき、降水量が多く日照時間はかなり少なかった。日照時間平年比の地域平均では、1946年の統計開始以降、東日本太平洋側では2位、東日本日本海側では3位の少ない記録となった。一方、北日本では、北海道を中心に高気圧に覆われやすく晴れの日が多かったが、月末には日本海を東進した寒冷低気圧の影響で大雨となった。

沖縄地方は14日ごろ（平年より6日遅い）、奄美地方は13日ごろ（平年より3日遅い）、九州南部は26日ごろ（平年より3日早い）に梅雨入りした。

上旬：前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は本州付近を通過した低気圧や前線の影響で、東日本と西日本を中心に曇りや雨の日が多く、7日には九州南部から東海地方にかけて大雨となった。北日本では高気圧に覆われて晴れの日が多かった。東日本以西では気温が高く、東日本では旬の初めと終りには真夏日となることもあった。**旬平均気温**は、北日本では平年並で、東日本、西日本と南西諸島では高かった。**旬降水量**は、北日本太平洋側と南西諸島では少なく、北日本日本海側と東日本では平年並で、西日本では多かった。**旬間日照時間**は、北日本日本海側では多く、北日本太平洋側では平年並で、東日本、西日本と南西諸島では少なかった。

中旬：前線が本州南岸から日本の南海上に停滞することが多かったため、東日本と西日本を中心に曇りや雨の日が多かった。台風第1号などの影響で暖湿流が流れ込んだため多雨となった。また、20日は上空の寒気の影響で関東地方を中心に雷雨となった。北日本では、高気圧に覆われたため、日本海側を中心に晴れる日が多く、気温は高かった。**旬平均気温**は、北日本と南西諸島では高く、東日本と西日本では低かった。**旬降水量**は、北日本と南西諸島では平年並で、東日本と西日本では多かった。**旬間日照時間**は、北日本日本海側では多く、北日本太平洋側と南西諸島では平年並で、東日本と西日本では少なかった。

下旬：前半は高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、23日は前線の通過で全国的に雨が降り、24日は関東地方で上空の寒気の影響で雷雨となった。後半は、東シナ海から日本海に進んだ寒冷低気圧の影響で曇りや雨となり、28日には北日本を中心に大雨となった。

南西諸島は前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。**旬平均気温**は、全国で平年並だった。**旬降水量**は、北日本と南西諸島では多く、東日本日本海側では少なく、東日本太平洋側と西日本では平年並だった。**旬間日照時間**は、全国で少なかった。

5月の気候統計

月平均気温：全国で高く、特に南西諸島ではかなり高かった。北海道のオホーツク海側と、九州南部から南西諸島にかけては、平年を1℃以上上回ったところがあった。

月降水量：北日本の日本海側では平年並だったが、そのほかの地域では多かった。西日本の一部では平年の170%以上となり、高知では5月の月降水量の最大値を更新した。

月間日照時間：北海道では多かったが、そのほかの地域では少なく、東北地方から九州にかけてはかなり少なかった。北海道を除いて平年の80%未満のところが多く、特に九州南部では平年の60%未満のところがあった。白河(福島県)、新潟、千葉、四日市(三重県)など6地点で5月の月間日照時間の最小値を更新した。

(気象庁観測部統計室)

5月の記録（1位更新のみ）

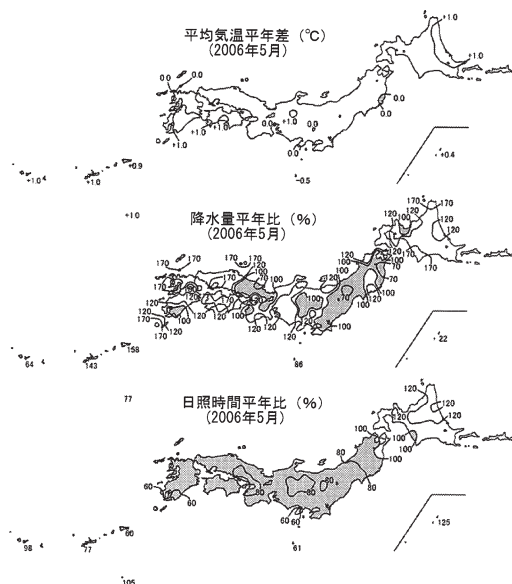
・月降水量多い方から (mm)

高知 637.5

・月間日照時間少ない方から (時間)

白河 125.4 輪島 154.3 新潟 145.9 千葉 129.2
四日市 131.9 種子島 88.2

2006年5月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。